

大原とびわ湖バレイ 山を越えてつながる自然といのち

京都市左京区大原の里と、大津市西部の比良山系に広がるびわ湖バレイ周辺は、行政区分こそ異なるものの、比叡山から比良山系へと連なる山々によって結ばれた、深い歴史と豊かな自然を共有する地域である。大原は京都盆地の北東端、標高約 200～300m の盆地状の地形に集落や田畑が広がり、その背後には標高 1,000m を超える比良山系の山並みが連なる。



図1 大原草生町の田んぼからみるびわ湖バレイ方向の眺め

なかでもびわ湖バレイは打見山（約 1,108m）や蓬萊山（約 1,174m）を中心とする高原地帯であり、琵琶湖を一望する雄大な景観と、冷涼な気候が特徴である。



図2 びわ湖バレイ 蓬萊山山頂から大原方向の眺め

両地域は直線距離では 10 数 km ほどしか離れていないが、標高差は 800m 以上に及び、気候や植生には大きな違いが見られる。大原は京都盆地特有の内陸性気候の影響を受け、夏は蒸し暑く、冬は放射冷却による厳しい冷え込みや積雪がある。一方、比良山系では日本海から流れ

込む湿った空気が山地で上昇し、多くの雨や雪をもたらすため、冬季には深い積雪に覆われる。こうした気象条件の違いが、それぞれに特色ある自然環境を育んでいる。

この地域は古くから「鯖街道」と呼ばれる交通路によって結ばれてきた。若狭で水揚げされた海産物は、比良山系西麓を南下し、途中町で峠を越えて大原へ入り、さらに市中へ運ばれた。人や物資だけでなく、文化や信仰もこの道を通じて往来し、山を隔てた両地域は密接な交流を続けてきた。

また、比叡山延暦寺を中心とする天台宗との関わりも深い。大原には天台宗ゆかりの寺院が数多くあり、比良山系にも修験道や山岳信仰の舞台となっている明王院（大津市葛川坊村）や天台比良修験道々場（大津市木戸）などが点在する。山は人々に恵みを与えると同時に、祈



図3 びわ湖バレイ打見山山頂直下の天台比良修験道々場

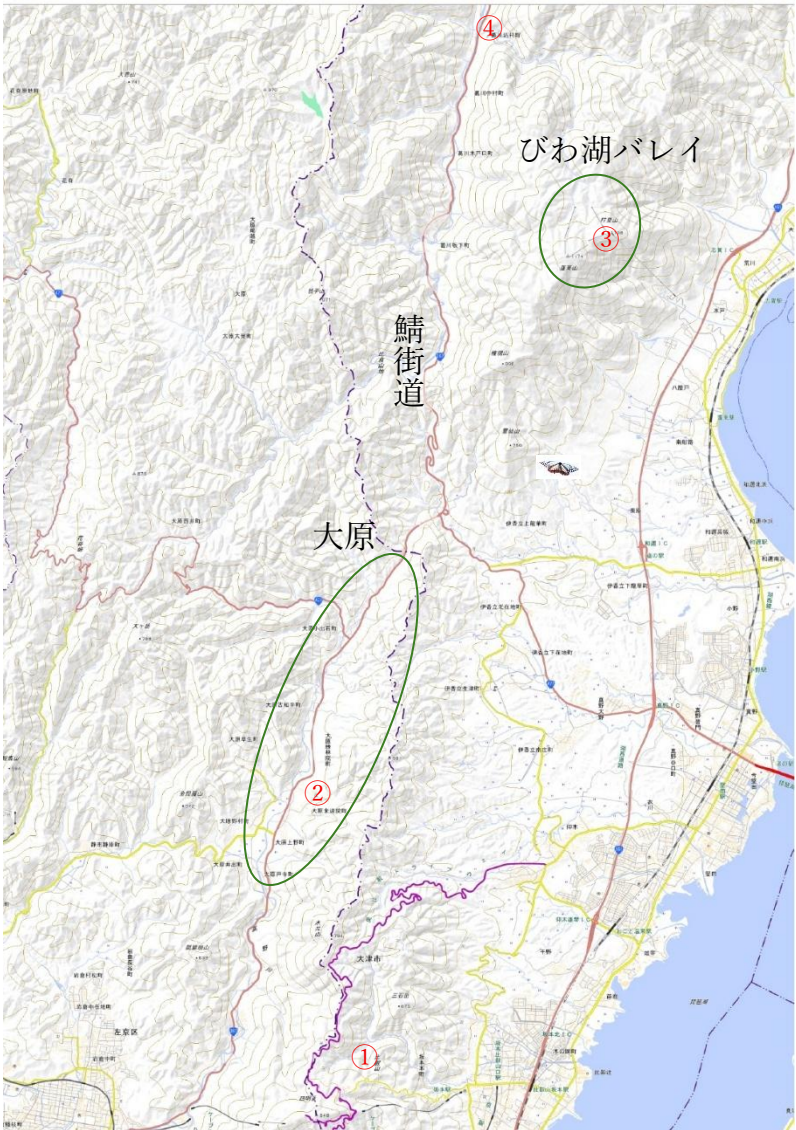
りの対象でもあり、その豊かな森林は今日まで多様な生きものを育み続けてきた。

昆虫の世界に目を向けると、両地域には豊かな森林や溪流環境を利用する共通種が数多く生息している一方で、地域性も顕著である。大原の里山や水田では、ゲンジボタルやヘイケボタル、ナツアカネ、アキアカネなど、人の営みと結び付いた水田や水辺の昆虫が豊富である。びわ湖バレイの溪流沿いではヒメアカネやミヤマサナエ、森林ではエゾハルゼミやミドリシジミの仲間、草原にはウスバシロチョウやルリボシヤンマなど、冷涼な環境を好む昆虫が見られる。また、びわ湖バレイの高原では、より標高の高い草原やブナ林に適応した高地性の昆虫が生息し、低地では見られない種と出会うことができる。標高や気候の違いが、昆虫相にも明確な個性を与えているのである。



図4 びわ湖バレイ ダイナミックコース（標高：約 1,000m）

地理的には近接しながらも、多様な自然環境を有する大原とびわ湖バレイ。この二つの地域を比較することは、地形や気候、人々の歴史、そして昆虫たちの暮らしが互いに深く関わり合っていることを理解する絶好の機会となる。本特別展示「大原とびわ湖バレイの昆虫」では、両地域の自然環境と昆虫相を対比しながら、その共通点と相違点を探り、山を越えてつながる生物多様性の豊かさを紹介したい。



地理院地図 GSI Maps より

- ① 比叡山延暦寺
- ② 三千院
- ③ 天台比良修験道々場
- ④ 明王院

注：
地図上に記した記号や楕円は、およその位置を示すもので、
精確な位置や行政区分を示すものではありません。